

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	長崎県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	波佐見町立南小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	19
児童数	66	70	57	74	60	71	1	399	

研究の概要

1. 研究主題

<p><b>自ら学ぼうとする子どもの育成</b>                  ~基礎・基本の確実な定着を図り、                  確かな学力の向上をめざした学習指導のあり方~</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>・全学年・算数                  児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。</p>
---

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>○テーマ                  自ら学ぼうとする子どもの育成                  ~基礎・基本の確実な定着を図る学習指導のあり方~</p> <p>○仮説                  次の4点に留意して、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行えば、確実に基礎・基本の定着を図ることができ、自ら学ぼうとする子どもが育成できるであろう。                  指導体制および個に応じたきめ細かな指導のための指導方法の工夫改善                  習熟度別学習を支える学習教材の開発                  学習環境の工夫改善                  児童の学力の評価を生かした指導の改善</p> <p>○研究内容・方法                  ・研究主題・研究仮説の設定                  ・週時程・時間割の見直し                  ・少人数指導・習熟度別学習の理論研究および授業実践                  ・習熟度別学習を支える発展学習・補充学習の教材開発                  ・学習環境の整備                  ・児童の学力の評価を生かした指導のあり方の研究                  ・評価規準・評価基準の作成                  ・学力検査の実施および児童の学力の実態把握                  ・児童および保護者の意識の実態調査                  ・はげみ学習・スキル学習の理論研究と実践および教材の作成                  ・通知表「あゆみ」の改訂                  ・先進校視察                  ・研究のまとめ・冊子作成</p>
--------	--

<p>○テーマ                  自ら学ぼうとする子どもの育成                  ~基礎・基本の確実な定着を図り、                  確かな学力の向上をめざした学習指導のあり方~</p> <p>○仮説                  次の4点に留意して、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行</p>
--

平成 15 年度	<p>例えば、確実に基礎・基本の定着を図ることができ、自ら学ぼうとする子どもが育成できるであろう。</p> <p>指導体制および個に応じたきめ細かな指導のための指導方法の工夫改善 習熟度別学習を支える学習教材の開発 学習環境の工夫改善 児童の学力の評価を生かした指導の改善</p> <p>○研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題・研究仮説の再検討・修正</li> <li>・週時程・時間割の再検討</li> <li>・少人数指導・習熟度別学習の理論研究および授業実践</li> <li>・習熟度別学習を支える発展学習・補充学習の教材開発</li> <li>・学習環境の整備</li> <li>・児童の学力の評価を生かした指導のあり方の研究</li> <li>・評価規準・評価基準の修正</li> <li>・学力検査の実施および児童の学力の変容の考察</li> <li>・児童および保護者の意識の変容の考察</li> <li>・はげみ学習・スキル学習の理論研究と実践および教材の作成</li> <li>・改訂通知表の実施・評価</li> <li>・サポートティーチャーの導入</li> <li>・先進校視察</li> <li>・研究の公開（平成15年11月5日）</li> <li>・研究紀要・指導案集・研究発表会のまとめの作成</li> </ul>
----------------	---

平成 16 年度	<p>○テーマ</p> <p style="text-align: center;">自ら学ぼうとする子どもの育成 ～基礎・基本の確実な定着を図り、 確かな学力の向上をめざした学習指導のあり方～</p> <p>○仮説</p> <p>次の4点に留意して、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行えば、確実に基礎・基本の定着を図ることができ、自ら学ぼうとする子どもが育成できるであろう。</p> <p>指導体制および個に応じたきめ細かな指導のための指導方法の工夫改善 習熟度別学習を支える学習教材の開発 学習環境の工夫改善 児童の学力の評価を生かした指導の改善</p> <p>○研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導・習熟度別学習の理論研究および授業実践</li> <li>・習熟度別学習を支える発展学習・補充学習の教材開発</li> <li>・学習環境の整備</li> <li>・児童の学力の評価を生かした指導のあり方の研究</li> <li>・学力検査の実施および児童の学力の変容の考察</li> <li>・児童および保護者の意識の変容の考察</li> <li>・研究の公開（平成16年11月下旬予定）</li> </ul>
----------------	--

### (3) 研究推進体制

<p>本校の研究の中心は、授業研究推進部である。低学年部会・中学年部会・高学年部会と横割りに分けて、授業実践を中心に全職員の研究体制で研究を推進している。また、スキル学習推進部・個別指導推進部では、担任と担任外の職員で組織をし、これも全職員で研究を推進している。この点は、平成14年度と変わっていない。</p> <p>授業研究推進部の活動を支えていくものとして、縦割りの組織も作っている。昨年度は、理論研究推進部・現職教育推進部・教育環境整備推進部の3つの部に全職員が所属して研究を推進してきた。しかし、本校は、全学年2クラスなので、3つの部に分けると1年から6年まで全学年の担任がそろわないという不都合があった。</p> <p>そこで、平成15年度は、活動内容を精選して2つの縦割りの組織にした。理論研究推進部と情報発信推進部である。この2つの部を組織したことで、全学年縦割りのメンバーがそろい、共通理解を得やすくなった。新しく情報発信推進部を作ったのは、研究の成果をよりわかりやすく情報発信するための活動が必要だと考えたからである。</p>
--

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

#### (1) 教師の変容

- ・一番の成果は、本研究を組織的に捉えるということが全職員の意識の中に浸透してきたことではないかと思う。本研究は、到底一人の力では成し得ない研究である。研究の当初からそうであったわけではないが、研究を推進していく中で、お互いに議論を交わしながらも、共通理解を図り、児童の学力を向上させるためにはどうしたらいいかを真剣に考え、実践につなげるようになってきた。
- ・習熟度別学習や興味・関心別学習に取り組み、児童の実態に応じた教材を開発したり、授業の流し方を考えたりするにあたって、教師同士お互いに切磋琢磨しながら共同研究を推進することができた。
- ・毎時間の評価規準・基準を作成し、それを活用することで、評価の視点がはっきりし、次時の授業に生かしたり、個に応じた支援を考え教材を工夫したりするようになってきた。
- ・習熟度別学習や少人数指導の実践を重ねることで、領域ごとの効果的な指導体制や指導方法をつかむことができた。
- ・少人数指導を行うことで、教師の目も行き届きやすく、一人一人の児童の特性や能力を把握しやすくなり、児童のつまずきを早く見つけることができ、個別の支援につながっていった。
- ・はげみ学習や授業の中に、サポートティーチャーを活用することにより指導がよりきめ細かいものとなり、教師の指導力向上につながった。

#### (2) 児童の変容

- ・習熟度別学習に、全学年を通して取り組む中で、それぞれのコースの教材の工夫により、学習中の児童の興味・関心、意欲が高まった。楽しみながら学習に取り組める環境が整うことで、学習の成果も大きくなった。習熟度別学習、興味・関心・意欲別学習は、低学年の早い時期から自然な形で取り入れていくことに意義がある。
- ・自己評価・相互評価を継続して取り組み合わせることにより、分からないことを分からないと言えるようになったり、なぜ分からないのか(できないのか)を考え、分かるように(できるように)するためにはどうしたらいいかを自分なりに考える事ができるようになってきた。(児童のメタ認知が高まった。)
- ・レディネステストやプレテストによって、必要な事項を児童とともに確認していくことで、新しい学習に必要な学力を個に応じて補充することができた。
- ・児童のわかるうとする意識が高まり、大きな学力の向上が見られた。
- ・問題解決的な学習の流れが身に付いてきて、算数コーナーやヒントカード等を効果的に使いながら、自ら学ぼうとする態度が育ってきた。
- ・はげみ学習・スキル学習が定着し、基礎・基本をきちんと身に付けることができるようになった。

指導と評価の一体化をめざしてのデータ(研究紀要 P21・22)  
児童及び保護者の実態調査のデータ(研究紀要 P66 ~ 77)

### 2. 今後の課題

- ・習熟が十分でない児童は、授業の時間内はもちろん、はげみタイムやスキルタイムで継続して基礎基本の定着のための補充学習を行い、力がついてきた。今後は、おおむね習熟している児童を更に引き上げ、十分習熟している児童には、発展的な学習を積極的に取り入れ、思考力・表現力を伸ばしていく必要がある。
- ・学級を解体して、少人数のグループを作る場合、児童も保護者も教師も納得したグループの編成が必要である。新たなグループを作ることで、児童の心理面でマイナスの面があれば、習熟度別学習を行う価値はないと思われる。児童の自学への学習意欲を更に高め、自己を過大評価することも、過小評価することもなく、本当に自分にあったコースを選択できるような児童の育成に努めなければならない。また、児童がそういう選択ができるよう、教師は各コースごとの教材を工夫し、単元を通しての取組をあらかじめ児童にわかりやすく説明していくなど更に工夫が必要である。
- ・評価規準・基準に照らし合わせて授業展開を考え、毎時間の評価を指導に生かすようになってはきたが、まだまだ十分とは言えない。簡潔にしかも正確に評価を行うためにはどうしたらいいか、また、その評価をどのように次時

の授業に生かしたり、個に応じた支援につなげていったりするかの研究が更に必要である。各学年の児童にふさわしい評価のあり方を探る必要がある。

- ・全学年において、算数コーナーは徐々に整備され、学習中の活用では大きな効果を上げているが、そこからの広がりが感じられない。今後学習中ばかりではなく、児童が常時興味をもって見るような掲示物の内容、掲示の仕方を考えたり、常時活動できるような算数ゲームを準備したりして、学習環境を整える必要がある。
- ・今後も更に補充的な学習・発展的な学習の教材開発に取り組みなければならないが、開発した教材や資料等の効果的な保管、共有化を図り、全職員で研究を深めていく必要がある。
- ・平成15年度2学期から、サポートティーチャーの協力をお願いしているが、個別指導がより一層確実なものになるような指導体制を考えていく必要がある。
- ・算数科の学習の中で、効果的なコンピュータの活用法の研究や、今後校内ネットワークが整備されることを念頭においた指導法の研究が必要である。

#### 学力等把握のための学校としての取組

- ・毎時間の学習内容の定着を確認するためのふりかえりテストの実施
- ・定期的な学力検査の実施（年1回）

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究発表会の開催（2年次）  
日時：平成15年11月5日（水）  
場所：波佐見町立南小学校  
対象：全ての教職員  
目的：研究成果の普及
- ・研究成果普及のためのHPの作成・公開  
（<http://www.town.hasami.nagasaki.jp/minami/>）
- ・平成15年度第1回佐世保地区学力向上実務担当者会  
日時：平成15年6月4日  
場所：佐世保市社会福祉センター  
対象：佐世保地区学力向上実務担当者  
目的：研究成果の普及
- ・平成15年度佐世保・東彼地区10年経験者研修会  
日時：平成15年8月25日  
場所：波佐見町立中央小学校  
対象：佐世保・東彼地区10年経験者教職員  
目的：研究成果の普及
- ・平成15年度長崎県教育課程研究協議会  
日時：平成15年7月30日  
場所：佐々町文化会館  
対象：県北地区教職員  
目的：研究成果の普及
- ・平成15年度小学校学力充実対策研修講座＜継続・前期・後期＞  
日時：平成15年6月12・13日，平成16年2月9・10日  
場所：県教育センター  
対象：小学校教職員（教職経験5年以上）  
目的：研究成果の普及，授業・研修の改善
- ・研究成果の普及活動の成果  
下記の学校から訪問を受け、普及活動を行った。  
佐世保市立日野小学校  
佐世保市立相浦西小学校  
佐世保市立相浦西小学校大崎分校

平戸市立平戸小学校  
諫早市立上山小学校  
南高来郡有明町立湯江小学校  
広島県口和町立口南小学校

- ・今後の研究発表会の開催予定（3年次）  
日時：平成16年11月下旬  
場所：波佐見町立南小学校  
対象：全ての教職員  
目的：研究成果の普及

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校      14年度からの継続校
- 【学校規模】       6学級以下       7～12学級  
                          13～18学級       19～24学級  
                          25学級以上
- 【指導体制】      少人数指導      T・Tによる指導  
                         一部教科担任制       その他
- 【研究教科】       国語       社会      算数       理科  
                          生活       音楽       図画工作       家庭  
                          体育       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      有       無